

ゆ ざりのかい

能楽下掛三流異流競演舞囃子ノ会

金春流×喜多流×金剛流
佐保山×清 経×船弁慶



2022年9月18日(日)13時開演

会場 嘉祥閣

料金 3,000円 お申込み先 koginkai@ares.eonet.ne.jp ※各出演者から直接ご予約も可能です 主催 高吟会

AFF2
ARTS for the Future

らいぶ 其の2
能楽下掛かり三流
舞囃子ノ会

2022年9月18日(日)13時開演
会場 嘉祥閣

主催/高吟会 企画制作/ゆとりのかい

ゆ

「ゆとりのかい」とは

能楽五流派のうち3流の若手能楽師、金剛流・山田伊純、金春流・金春飛翔、喜多流・高林昌司によるコラボ企画。3人はみな平成生まれの「ゆとり世代」ということからこの名がつけました。ゆとりによる、ゆとりのための、ゆとりある能らいぶを提供致します。一生懸命頑張りますので応援よろしくお願いいたします。

とりのかい

〈金春流舞囃子〉

佐保山

金春飛翔

大鼓 山本寿也
小鼓 成田 奏

太鼓 中田一葉
笛 赤井要佑

地謡 金春穂高
金春嘉織

〈喜多流舞囃子〉

清経

高林昌司

大鼓 山本寿也
小鼓 成田 奏

笛 赤井要佑

地謡 谷友矩
高林伸二

休憩

〈喜多流番外仕舞〉

楊貴妃

高林伸二

地謡 高林昌司

〈金剛流舞囃子〉

船弁慶

山田伊純

大鼓 山本寿也
小鼓 成田 奏

太鼓 中田一葉
笛 赤井要佑

地謡 向井弘記
宇高德成

●合間にトークが入ります

金春流『佐保山』

春日参詣の藤原俊家が、あたりの景色を眺めていると、佐保山に衣の干してあるのが眼にとまり、早速山へ登る。そこへ二人の里女が現れ、佐保山の霞の衣のことなど、佐保姫の神徳をのべたあと、佐保山の神祭りや月の夜遊を約し、夕霧の中に立ち去る。やがて佐保山姫がその本体を現し、真ノ序ノ舞を舞って泰平の代を守護する神徳を示す。この能は葛城や三輪等と同じく女神体物であるが、脇能物という珍しい曲である。また、現在では金春流でしか上演されていない稀曲である。(はるお)

喜多流舞囃子『清経』

治承寿永の乱末期、平清経は平家の行く末に絶望し入水。帰りを待つ都の妻の元には遺髪が届けられるが、悲嘆の余り受け取りを拒む。すると彼女の夢枕に清経の霊が現れ、西海の合戦と自身の最期の有様を語り、やがて修羅道に落ちるも仏の慈悲により成仏が叶ったことを伝えて消えていく。(しよーじ)

金剛流舞囃子『船弁慶・後』

本曲は能楽の中では有名曲のひとつ。能の前半部分では源義経と静御前の別れを描くが、今回は後半部分を演じるため平家の公達の中でも勇猛と知られた平知盛が主役として登場する。かつて海に沈められた知盛の霊は平家の一門を連れて、西国に逃げる義経たち一行を海に沈めようと襲い掛かるのが見どころ。袴姿の舞囃子という形式は、体の線が浮き彫りとなるため、型をより楽しむことができる。舞金剛の名に恥じない芸に努めたい。(いすみ)

料金 3,000円

お申込み先 koginkai@ares.eonet.ne.jp

※各出演者から直接ご予約も可能です

高吟会 詳細 <http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/>

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

嘉祥閣 京都市中京区両替町通竹屋町上る

- JR京都駅・阪急烏丸駅・市バス北大路駅より地下鉄烏丸線:「丸太町駅」下車4番出口
- JR二条駅・京阪三条駅より地下鉄東西線:「御池駅」にて烏丸線乗り換え「丸太町駅」下車4番出口



金春飛翔 Komparu Hikaru
金春流能楽師

公益社団法人能楽協会会員 大阪支部所属 公益社団法人金春
円満井会理事 関西大学文学部総合人文学科卒業。平成十三年に
祖父見寛、父穂高について稽古を始め、平成十四年十月「花筐」の
子方で初舞台を勤める。平成十九年に「獅子」を抜き、平成二十年に
稀曲「初雪」にて初シテを勤め、平成二十一年には「乱」を抜く。平成
二五年に国指定重要無形民俗文化財春日若宮御祭礼松之下式にて
「矢立合」を勤める。以後毎年、フランス公演等海外公演にも参加
し積極的に能楽普及につとめている。

山田伊純 Yamada Isumi
金剛流能楽師

公益社団法人能楽協会会員 京都能楽会所属 金剛流宗家金剛
永護のもと住込み修業を終え独立を許される。現在は金剛流の一員
として流儀の各舞台に出演している。初舞台は6歳にて「百萬」の
子方を勤める。今までの主な開曲は「石橋」「乱」「望月」。同志社大学
文学部卒業。LINEプロクやYouTube「すみちゃんねる」をはじめ、
能楽ワークショップを催すなど若い人にむけた能楽普及に取り組む。

高林昌司 Takabayashi Shoji
喜多流能楽師

公益社団法人能楽協会会員 大阪能楽養成会研修生
幼少より祖父・高林白牛口二及び父高林伸二に指導を受ける。初舞台
は三歳にて仕舞「高砂」を勤める。令和三年五月「狸太乱」。龍谷大学
文学部卒業。能楽を知らない人たちへの普及活動を志す。

ゆとりのかいのうちまゝ

